

科目名 社会科・地理歴史科教育法
Title Teaching Methods in Social and Geographic-Historical Studies I
科目区分 教職関連科目

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 小泉 秀人 (コイズミ ヒデト)

E-Mail

配当年次 1~4 単位区分 要件外 単位数 2 開講時期 前期

目的

学校現場における教員経験を活かして、教職に関する実践力を養うよう指導する。すなわち、「頭でっかちの物知り」になるのではなく、どうしたら、子どもたちを「学び、考える主体」に育てていくことができるか、という点での探求を、指導教員・学生ともに行っていく。

達成目標

自分が感じたり、考えたり、疑問に思ったりしたことを適切に発信し、また、他者のそれを的確に共有するように努めることができる。子どもたちについて、理解しようとする姿勢を自分のものにする。現在の教育をめぐる問題について理解する。集団の聞き手に対して「伝えたいこと」を考える。教材の選択について考える。

スケジュール

- 第1回 講義の進め方、学習指導要領の内容、指導教員の模擬授業
- 第2回 いい授業ってなんだろうフリートークで深める
- 第3回 教育的関係の成立とは一教員からの一方通行にならないために
- 第4回 全員5分間模擬授業高校生向け(1)一自己の実践力を客観的に見つけ、他者の評価を受け止める
- 第5回 全員5分間模擬授業高校生向け(2)一講評とこれからの問題提起
- 第6回 授業づくり(1)中学校の教科構造と社会科、学習指導要領のねらい
- 第7回 授業づくり(2)高校の教科構造と地理歴史科、学習指導要領のねらい
- 第8回 授業づくり(3)地理的分野を深める
- 第9回 授業づくり(4)歴史的分野を深める
- 第10回 授業づくり(5)情報機器や教材の活用法
- 第11回 授業づくり(6)授業の構成
- 第12回 授業づくり(7)指導案と評価
- 第13回 全員5分間模擬授業中学生向け(1)一自己の実践力を客観的に見つけ、他者の評価を受け止める
- 第14回 全員5分間模擬授業中学生向け(2)一講評と問題提起
- 第15回 全体のまとめ、最終レポートの指示

教科書・参考文献

- 教科書 ①文部科学省「高等学校学習指導要領解説一地理歴史編」
②文部科学省「中学校学習指導要領解説一社会編」 ③実教出版『高校日本史B 新訂版』
- 参考書 講義の中で指示する。

授業外での学習

学んだことはすぐに復習し、次回に向けて考えておく。また、教員にとっては、授業外の全てのことが学習対象である。素晴らしい自然、よき芸術に意識的に触れるようにすること。

評価方法

試験はおこなわない。発言など授業中の取り組み、毎回のリアクションペーパー、最終レポート、模擬授業を見て、以下の項目を20%ずつの比重で評価する。漢字の間違いなどの基本的な表現能力・内容理解力・ディスカッションでの発言力・書類作成能力・実践的な教科指導力。

履修上の注意

!!と合わせて履修することが望ましい。しっかりノートをとること。レポートを書くときは、字をなるべくきれいにゆっくりと書くこと。日常的に教育に関するニュースはもちろん、ニュース全般について注目していること。

科目名 社会科・地理歴史科教育法II
Title Teaching Methods in Social and Geographic-Historical Studies II
科目区分 教職関連科目

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 小泉 秀人 (コイズミ ヒデト)

E-Mail

配当年次 1~4 単位区分 要件外 単位数 2 開講時期 後期

目的

学校現場における教員経験を活かして、教職に関する実践力を養うよう指導する。すなわち、「頭でっかちの物知り」になるのではなく、どうしたら、子どもたちを「学び、考える主体」に育てていくことができるか、という点での探求を、指導教員・学生ともに行っていく。

達成目標

自分が感じたり、考えたり、疑問に思ったりしたことを適切に発信し、また、他者のそれを的確に共有するようになるようになる。子どもたちについて、理解する力をつける。現在の教育をめぐる問題について自分の意見をもつ。集団の聞き手に対して「伝えたいこと」を伝えられる力をつける。教材の選択についての理解と実践的な能力を深める。

スケジュール

- 第1回 Iで明らかになったこと、IIの課題
- 第2回 授業づくり(8)子どもの学びと教員
- 第3回 授業づくり(9)教材開発
- 第4回 授業づくり(10)グループワーク
- 第5回 授業細案を深める
- 第6回 指導案と評価を深める
- 第7回 総合考察(1)授業改善、教員の資質向上
- 第8回 総合考察(2)最終模擬授業に向けて、発展的学習の追求
- 第9回 模擬授業—受講者による授業実習
- 第10回 模擬授業—受講者による授業実習
- 第11回 模擬授業—受講者による授業実習
- 第12回 模擬授業—受講者による授業実習
- 第13回 模擬授業—受講者による授業実習
- 第14回 模擬授業—受講者による授業実習
- 第15回 全体のまとめ、最終レポートの指示

教科書・参考文献

- 教科書 ①文部科学省「高等学校学習指導要領解説—地理歴史編」
②文部科学省「中学校学習指導要領解説—社会編」 ③実教出版『高校日本史B 新訂版』
- 参考書 講義の中で指示する。

授業外での学習

学んだことはすぐに復習し、次回に向けて考えておく。また、教員にとっては、授業外の全てのことが学習対象である。素晴らしい自然、よき芸術に意識的に触れるようにすること。

評価方法

試験はおこなわない。発言など授業中の取り組み、毎回のリアクションペーパー、最終レポート、学習指導案、模擬授業を見て、以下の項目を20%ずつの比重で評価する。漢字の間違いなどの基本的な表現能力・内容理解力・ディスカッションでの発言力・書類作成能力・実践的な教科指導力。

履修上の注意

Iと合わせて履修することが望ましい。しっかりノートをとること。レポートを書くときは、字をなるべくきれいにゆっくりと書くこと。日常的に教育に関するニュースはもちろん、ニュース全般について注目していること。

科目名 社会科・公民科教育法
Title Teaching Methods in Social Studies and Civics I
科目区分 教職関連科目

担当教員 内山 知一 (ウチヤマ トモカズ)
准教授
担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1~4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
前期

目的

中学校社会科・高等学校公民科の特徴、変遷、授業等について、さまざまな観点で見ることで有効に基礎知識を習得し、学校での経験を元にした学び等も踏まえて、授業づくりに不可欠なスキルを身に付ける。

達成目標

1. 教科の特徴や変遷等にかかわる基礎知識を習得する。
2. 模擬授業や優れた授業の特徴を明らかにすることで、教科の目標、方法、内容等をさまざまな観点でとらえ、指導法を身に付ける。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 教科の特徴と概観(目標・意義等)
- 第3回 教科の歴史的変遷・新傾向(1)
- 第4回 教科の歴史的変遷・新傾向(2)
- 第5回 授業事例：発問に焦点を当てて
- 第6回 授業事例：教材に焦点を当てて
- 第7回 授業事例：その他
- 第8回 学習指導案の書き方
- 第9回 模擬授業(1)
- 第10回 模擬授業(2)
- 第11回 模擬授業(3)
- 第12回 模擬授業(4)
- 第13回 模擬授業(5)
- 第14回 模擬授業の振り返り
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 適宜資料を配布します。

参考書 必要に応じて適宜指定します。

授業外での学習

事前・事後の予習・復習をしっかりと行うこと。

評価方法

参加度(模擬授業や提出物等:60%)
試験(40%)

履修上の注意

やむを得ない場合を除き、遅刻・欠席はしないこと。受講人数・状況等によって、順番等が変わることがある。
2年生以上での受講を勧める。

科目名 社会科・公民科教育法II
Title Teaching Methods in Social Studies and Civics II
科目区分 教職関連科目

准教授 内山 知一 (ウチヤマ トモカズ) 担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1~4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
後期

目的

中学校社会科・高等学校公民科の特徴、変遷、授業等の内容を関連づけて把握することで、当該領域の基礎知識を習得し、学校での経験を元にした学び等も踏まえて、有効な授業づくりに不可欠なスキルを身に付ける。

達成目標

1. 教科の特徴や変遷等の内容を、関連性も含めて習得する。
2. 模擬授業や優れた授業の特徴を明らかにすることで、教科の目標、方法、内容等をさまざまな観点でとらえ、有効な授業づくりができる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 現行のカリキュラムの特徴と概観
- 第3回 現在までのカリキュラムの主な変遷
- 第4回 授業事例：発問に焦点を当てて
- 第5回 授業事例：教材に焦点を当てて
- 第6回 授業事例：その他
- 第7回 学習指導案の書き方
- 第8回 模擬授業(1)
- 第9回 模擬授業(2)
- 第10回 模擬授業(3)
- 第11回 模擬授業(4)
- 第12回 模擬授業(5)
- 第13回 模擬授業の振り返り
- 第14回 有効な授業の条件
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 適宜資料を配布します。

参考書 必要に応じて適宜指定します。

授業外での学習

事前・事後の予習・復習をしっかりと行うこと。

評価方法

参加度(模擬授業や提出物等:60%)
試験(40%)

履修上の注意

やむを得ない場合を除き、遅刻・欠席はしないこと。前期のIを履修済みであることが前提となる。また、受講人数・状況等によって、順番等が変わることがある。2年生以上での受講を勧める。

科目名 商業科教育法I
Title Teaching Methods of Business I
科目区分 教職関連科目

担当教員
非常勤講師 吉田 統久 (ヨシダ ノリヒサ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 要件外	単位数 2	開講時期 前期
-------------	-------------	----------	------------

目的

教育関係法令や学習指導要領における教科「商業」の意義や目的・目標を明らかにするとともに、全国の商業高校の教育課程表を参考にして、学習者の理想と考える商業教育の教育課程表を考察する。また、大学で学ぶ経済、経営、簿記会計、情報等の専門的な知識・技術を、高校教育の場で実際に生かす力の育成も主眼とする。

達成目標

学習指導要領の趣旨を踏まえた授業の実践力及び教科「商業」の専門的な指導力を高めようとする意欲的な態度の育成をポイントに、将来、高校の教員として商業教育を担当するにふさわしい資質・能力を身に付けることを達成の目標とする。

スケジュール

- 第1回 商業教育の目的と商業関係法令
- 第2回 高等学校における商業教育の必要性
- 第3回 我が国の商業教育の歩み
- 第4回 高等学校管理規則について
- 第5回 学習指導要領について
- 第6回 商業科の目標について
- 第7回 商業科の科目の編成について
- 第8回 ビジネス基礎の目標と内容についての取り扱い
- 第9回 マーケティング分野科目群について
- 第10回 ビジネス経済分野科目群について
- 第11回 会計分野科目群について
- 第12回 ビジネス情報分野科目群について
- 第13回 総合的な科目について
- 第14回 商業高校の教育課程の考察(専門高校を中心として)
- 第15回 商業科併設高校の教育課程の考察

教科書・参考文献

教科書 「高等学校学習指導要領解説 商業編」

参考書 「教職必修最新商業科教育法」 岡田修二他共著(実教出版)

授業外での学習

新聞等社会への関心を持って取り組む

評価方法

課題・実習 50% テスト 50%

履修上の注意

商業科教育法I・IIの履修が望ましい

科目名 商業科教育法II
Title Teaching Methods of Business II
科目区分 教職関連科目

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 吉田 統久 (ヨシダ ノリヒサ)

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 要件外	単位数 2	開講時期 後期
-------------	-------------	----------	------------

目的

高等学校における効果的な商業に関する教科・科目の指導方法を学ぶ。
教育関係法令や学習指導要領における教科「商業」の意義や目的・目標を明らかにするとともに、年間指導計画や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、教科商業における種々の指導技術を実際的に学習する。

達成目標

学習指導要領の趣旨を踏まえた授業の実践力及び教科「商業」の専門的な指導力を高めようとする意欲的な態度の育成をポイントに、将来、高校の教員として商業教育を担当するにふさわしい資質・能力を身に付けることを達成の目標とする。

スケジュール

- 第1回 学習指導要領の改訂に伴っての商業科の目標の変遷について
- 第2回 マーケティング分野を中心とした教育課程の編成について
- 第3回 マーケティング分野の学習指導案・年間指導計画について
- 第4回 ビジネス経済分野を中心とした教育課程の編成について
- 第5回 ビジネス経済分野の学習指導案・年間指導計画について
- 第6回 会計分野を中心とした教育課程の編成について
- 第7回 会計分野の学習指導案・年間指導計画について
- 第8回 ビジネス情報分野簿記の学習指導案の作成
- 第9回 ビジネス情報分野の学習指導案・年間指導計画について
- 第10回 「ビジネス基礎」の学習指導案の作成
- 第11回 「簿記」の学習指導案の作成
- 第12回 「経済生活と法」の学習指導案の作成
- 第13回 「簿記」の研究授業
- 第14回 「ビジネス基礎」の研究授業
- 第15回 商業教育の現状

教科書・参考文献

教科書 「高等学校学習指導要領解説 商業編」

参考書 「教職必修最新商業科教育法」 岡田修二他共著 (実教出版)

授業外での学習

新聞等社会への関心を持って取り組む

評価方法

課題・実習 50% テスト 50%

履修上の注意

商業科教育法Iを先に履修することが望ましい

科目名 教育原理
Title Principles of Education
科目区分 教職関連科目

担当教員 池野 正晴 (イケノ マサハル)
名譽教授 池野 正晴 (イケノ マサハル)
担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 要件外	単位数 2	開講時期 前期
-----------	-------------	----------	------------

目的

- 教育事象・教育現象や教育活動について哲学的・科学的に探究し、教育及び教師のあるべき方向について自分なりに考える力を修得する。

達成目標

- 1 教育の本質・目的についてさまざまな考え方及びその違いが理解できる。
- 2 さまざまな教育思想が理解できる。
- 3 教育事象・教育現象について、自分なりに考えることができる。

スケジュール

- 第1回 教育とは何かI - 「教」と「育」 -
- 第2回 教育とは何かII - 「教育」の出現 -
- 第3回 人間モデルの教育I - 手細工モデルと農耕モデル -、家族と社会
- 第4回 人間モデルの教育II - 飼育モデル -、現代の教育課題
- 第5回 人間モデルの教育III - 人間モデル -、教育制度の歴史と発展
- 第6回 実存モデル・非連続的形式の教育I - 実存哲学と実存モデル -
- 第7回 実存モデル・非連続的形式の教育II - 新たな連続性モデルと教育的雰囲気 -
- 第8回 新優生学と教育の問題I - パーフェクト・ベイビーと優生学、発達障害 -
- 第9回 新優生学と教育の問題II - 新優生学の登場 -
- 第10回 新優生学と教育の問題III - ハーバース、ルーマン、レヴィナス、サンデル -
- 第11回 教育思想の4つのパターン (アメリカ)
- 第12回 社会と教育 - 脱学校論、銀行型教育批判等 -
- 第13回 教育諸現象 (いじめ等) における哲学的考察
- 第14回 道徳教育を哲学する
- 第15回 性の多様性と特別ニーズ教育の問題

教科書・参考文献

- 教科書 ○ 池野正晴『教育原理 / 教育哲学』(池野作成の授業用冊子 / 配付)
- 参考書 ○ 池野正晴『新しい時代の授業づくり』、東洋館出版社、2019年(6刷)
○ 寺崎・古沢・増井・池野他『名著解題』、協同出版(教職課程新書)、2009年

授業外での学習

- 次回の該当箇所をよく読んで、ノートにまとめておく。
- 印刷テキストの、次回該当箇所の空欄部分について、自分なりに考えて、用語をうめておく。
- レポートとして取り上げたいテーマについて、経験や新聞・参考文献等を集め、少しずつまとめておく。

評価方法

- レポート(作成、発表、ミニレポート) 60%
- 参画度(コメント、グループ討論、貢献度、積極的な参加度等) 40%

履修上の注意

- 参考文献・参考図書等については、その都度紹介する。
- 受講にあたりたいせつなことは、「その場において考え、話し合いに参加すること」であり、そのことが「哲学する」ということにつながる。
- ペアワークやグループ討論では、積極的に参加し、自分の意見を表現し、相手の意見も尊重しながら聴く。

科目名 教育学
Title Education
科目区分 教職関連科目

担当教員
准教授 吉原 美那子 (ヨシハラ ミナコ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 要件外	単位数 2	開講時期 後期
-------------	-------------	----------	------------

目的

本講義は「教育学」の入門編である。教育の基礎的概念、そして理論・歴史・思想の基本的な知識を学び、「教育とは何か」という問いを多角的かつ客観的に理解することを目的とする。全体は、(1)教育の本質と教育思想、(2)公教育の概念と教育制度、展開、(3)学校教育のあり方と今日的課題、(4)現代社会における教育問題と子ども、の4構成から成り立っている。これらにより、教育という営みについて理解を深め、教育の様々な事象に対し自らの考えをもつ力を培うことを目指す。

達成目標

本授業のテーマは教育の本質を学ぶことである。本授業の達成目標は次の通りである。1. 教育の思想、歴史的事項、制度を体系的に理解する。2. 学校の意義について多角的に議論することができる。3. 社会の変容と子ども・若者との関係を説明することができる。4. 教育の諸問題を客観的に捉え議論できる能力を身につける。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション:講義の概要と進め方、評価方法の説明、導入講義
- 第2回 教育の本質① 「教育」の語源、「教育」とは何かを考える
- 第3回 教育の本質② 人間の発達段階と教育、歴史からみる“子ども”
- 第4回 教育の本質③ 教育の思想家から学ぶ教育理論と実践(古代から近代)
- 第5回 教育の本質④ 教育の思想家から学ぶ教育理論と実践(近代から現代)
- 第6回 公教育の概念と制度① 教育の歴史、そもそも「学校」とは?
- 第7回 公教育の概念と制度② 近代教育制度の成立、教育の義務化と教育を受ける権利の確立
- 第8回 公教育の概念と制度③ 公教育制度の基本原則
- 第9回 現代の学校教育① 学校の知と学校文化
- 第10回 現代の学校教育② 学校の意義(デイバート)と脱学校論
- 第11回 現代の学校教育③ 諸外国の学校教育制度
- 第12回 現代の学校教育④ 日本と諸外国の学校文化を比較する
- 第13回 現代の子ども:現代社会と子ども観の変容
- 第14回 教育と子ども:現代社会の子ども・家庭の変容
- 第15回 総括、現代における教育の諸問題について議論する

教科書・参考文献

教科書 勝野正章他(2015)『問いからはじめる教育学』有斐閣ストウディア
毎回プリント(ノート用及び資料)を配布する

参考書 藤田英典・田中孝彦・寺崎弘昭『教育学入門』岩波書店、1997年
刈谷剛彦・瀨名陽子 他『教育の社会学<常識の問い方、見直し方>』有斐閣アルマ、2000年 他

授業外での学習

配布するノート用プリントを完成させること(復習)。授業中に数回課題を提示するので、必ずやってくること。授業で設定するワークショップはこれらの課題をやってくるのが前提となる。

評価方法

課題・グループディスカッション(30%)、期末試験(70%)を基本に、総合的に判断して評価する。

履修上の注意

日頃から教育に関わるマスメディアの情報や書籍、専門誌に目を通すことを期待する。また、履修者同士のディスカッションの場を設けるので、その点を考慮した上で履修してほしい。ディスカッションが苦手な場合であっても教員が支援する。また、履修者の興味関心や提示した課題の進行具合によって、講義のテーマもしくは内容が前後することがあることに留意されたい。

科目名 教育と社会
Title Education and Society
科目区分 教職関連科目

担当教員
非常勤講師 松浦 富士夫 (マツウラ フジオ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1~4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
後期

目的

さまざまな視点から現代社会と教育の関係や政治・教育行政と教育との関係を考える。また、今日まで行われてきたさまざまな教育改革について学び、そのあり方を問う。さらに、教育思想家や庶民教育機関において行われた教育に学び、その本質や意味を理解する。

達成目標

「教育改革」というテーマのもと、教育の本質と歴史の理解の上に立って、さまざまな視点から教育の諸問題について考える力を養う。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション (授業概要説明)
- 第2回 日本の社会と教育
- 第3回 人間教育の視点から見た教育の現状と課題
- 第4回 地域社会・学校・家庭 -その現状と課題-
- 第5回 教育基本法 -制定の背景とその精神-
- 第6回 戦後教育改革1 (教育の理念や学制など)
- 第7回 戦後教育改革2 (新制大学の発足や教育養成など)
- 第8回 戦後教育改革の後退 (中央教育審議会設置を起点とする)
- 第9回 新自由主義的教育改革1 -その背景と方向性-
- 第10回 新自由主義的教育改革2 (大学審議会設置を起点とする大学改革)
- 第11回 教育基本法改正 -その背景と改正点-
- 第12回 改正基本法を起点とする教育改革の動向
- 第13回 庶民教育機関で行なわれた教育
- 第14回 ルソーの教育思想に学び教育の本質を考える
- 第15回 永杉喜輔の教育学に学び教育の本質を考える

教科書・参考文献

教科書 毎回授業の概要を配布する

参考書 ルソー『エミール』(1962,岩波書店)
山住正巳『日本教育小史』(1987,岩波書店)

授業外での学習

社会や教育の動向に関心を持ち、新聞記事等に目を通すこと

評価方法

レポート30点。定期試験50点。平常点20点。

履修上の注意

オリエンテーションに必ず出席し、授業概要を十分理解した上で履修すること

科目名 教職原論
Title Principles of Teaching Profession
科目区分 教職関連科目

担当教員
非常勤講師 大佐古 紀雄 (オオサコ ノリオ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 要件外	単位数 2	開講時期 後期
-------------	-------------	----------	------------

目的

教職は、こどもの育ちに大きく関わり、また日本の未来さえも左右する、社会的な意義が非常に大きい職業である。教職免許を取得しようとする者は、その職責の重さを十分理解することが求められる。本講は、教職が社会的に有する重要性と現代的な意義、教員の役割、資質能力、職務の内容、教職における服務義務や身分保障を理解し、その理解を基盤として、教職への適性をみずから見極めながら教職の世界全体へと理解を拡げる一連の過程を通じて、教職に向けた意識形成を図ることを目的とする。

達成目標

①教職観の変遷を踏まえて現代の教員に求められる資質能力を理解する。②教職免許に関する制度、教員の服務義務や身分保障を理解する。③教員の多様な職務内容を理解し、研修などで学び続ける必要性とその内容について理解する。④「同僚性」形成、協働関係、チーム学校の重要性を理解する。⑤他の職業との比較などを通じて、教職の特徴や存在意義を理解し、教職への意識形成のための機会を十分に得る。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション、受講生がこれまでに教職者と関わってきた経験の振り返り
- 第2回 日本における教職観の変遷
- 第3回 法令から読み解く教職の意義
- 第4回 教員に求められる役割と資質能力ー近年の審議会答申などを読み解くー
- 第5回 教員の多様な職務内容を探る
- 第6回 教育職員免許法に定める教員の種類と養成
- 第7回 教員の服務義務と身分保障
- 第8回 学び続ける教員であるためにー生涯にわたる研修を理解するー
- 第9回 「同僚性」と「チーム学校」
- 第10回 教師の実際に学ぶ (1)ーある中学英語教師からー
- 第11回 教師の実際に学ぶ (2)ーある小学校教師からー
- 第12回 他の職業と比べる (1)ー研修医との比較ー
- 第13回 他の職業と比べる (2)ー法務教官との比較ー
- 第14回 教師の実際に学ぶ (3)ーある小学校校長の実践からー
- 第15回 まとめー教職の意義を再考する

教科書・参考文献

教科書 羽田積男・関川悦雄編『現代教職論』(弘文堂:2016年)を使用する。

参考書 必要に応じて適宜配布する。

授業外での学習

教職への意識をみずから高めるために、日頃から教員や学校に関する話題に鋭敏なアンテナを立てておいてほしい。

評価方法

- * 毎回の授業の振り返り(リフレクションシート) 50%
- * 定期試験 50%
- * 平素の受講状況 評価に反映すべき要素があれば適宜加点・減点する。

履修上の注意

昨今の学校や教員に対する社会のまなざしの厳しさに鑑みて、相応の受講態度で臨むこと。シラバスの内容や順序は、本講の目的・目標を逸脱しない範囲で変更されることがある。

科目名 教職原論
Title Principles of Teaching Profession
科目区分 教職関連科目

准教授 吉原 美那子 (ヨシハラ ミナコ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1~4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
前期

目的

教職は、学校における公教育を通じて子どもたちの育ちに大きく関わる職業であり、かつ社会的意義が非常に大きい職業でもある。教職免許を取得しようとするのであれば、その職責の重さを理念的かつ実践的に理解することが求められる。そこで本講義では、受講者も教職者との関わりを経験を出発点に、教職観の変遷と現行法令や関連の審議会答申などから読み解く教職の意義および教員の役割・資質能力について講ずる。次に、教員の職務内容や教育職員免許法の内容（免許の種類や養成）、教員の服務義務と身分保障を扱う。さらに、法定研修も含めた研修のあり方と学校内での「同僚性」と「チーム学校」について扱い、実際の教員や他職種との比較を取り入れて、最後に教職の意義を再考する機会を設ける。

達成目標

①現代において教員が果たすべき役割や求められる資質能力を理解する。②教職員免許に関する制度、教員の服務義務や身分保障を理解する。③教員の多様な職務内容と研修制度、「学び続ける教員」の意味について理解する。④学校内における教職員との「同僚性」形成、学校に関わる多様な専門家・関係者や地域の人々との協働関係の重要性を理解する。⑤他の職業との比較も行いながら、教職という職業の特徴や存在意義を理解する。

スケジュール

- 第1回 ガイダンスと導入講義：受講者がこれまでに教職者と関わってきた経験の振り返り
- 第2回 教職の意義と教員に必要な資質能力① 教師の仕事は何かから考える
- 第3回 教職の意義と教員に必要な資質能力② 教師観の変遷、政策・学術から考える資質能力
- 第4回 教職の意義と教員に必要な資質能力③ 臨床から考える資質能力、目指す教師像を考える
- 第5回 教職への道と教員養成の仕組み、教員免許制度
- 第6回 教員の職務① 学習の意義と目的、体系的な方法、学習指導要領の動向
- 第7回 教員の職務② 生徒-教員の関係構築、生徒指導の実践
- 第8回 教員という職の特性① 教員の文化
- 第9回 教員という職の特性② 教員の地位と身分、服務
- 第10回 教員という職の特性③ 教員の学び（研修）
- 第11回 教員という職の特性④：教員の専門職性、同僚性
- 第12回 学校の組織①：学校職員、校務分掌、教員の同僚性からチーム学校へ
- 第13回 学校の組織②：学校評価、学校と他機関との連携
- 第14回 教師論議：グループ・ディスカッション
- 第15回 総括、教職への道と自らの適性

教科書・参考文献

- 教科書 佐藤晴雄著(2015)『教職概論(第4次改訂版)』学陽書房。書き込み式講義ノート及び資料プリントをほぼ毎回配布する。課題やレポート等に必要な文献は、授業中に指示する。
- 参考書 レポート等に必要な文献は、授業中に指示する(課題図書を選択)。また、参考になる資料等は必要に応じて授業中に紹介する。

授業外での学習

第1回のガイダンスにて、毎回の授業についての、授業内容の理解に必要とされる教科書範囲もしくは課題プリントの説明を行う。指示に従い、必ずやっておくこと。これらの他、自ら進んで上記の参考文献やその他の関連文献、インターネットにて政策文書などをあらかじめ読んで把握しておくこと。

評価方法

授業中に提示された課題プリント(20%)及び中間テスト(30%)、期末レポート(50%)を基本に、総合的に判断して評価する。

履修上の注意

教職課程の導入科目です。教職課程の履修の相談にも応じます。授業は講義だけでなく映像資料も使って進めます。ディスカッションも随所に行うので、積極的な姿勢を期待します。第14回に予定されているグループ・ディスカッションは履修者の学習の状況により、前倒して行うこともあります。

科目名 教育経営論
Title The Educational Administration
科目区分 教職関連科目

担当教員
非常勤講師 高橋 望 (タカハシ ノゾム)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 要件外	単位数 2	開講時期 前期
-------------	-------------	----------	------------

目的

現代の公教育は、法に基づいて運営されており、教育をめぐる諸問題を社会的な文脈で理解する際には教育法規についての基礎的な理解が不可欠である。また学校は、そうした法規、制度を基盤に運営されている。そこで本講義では、現代日本の教育法規の概要を理解したうえで、教育経営、学校経営にかかわる具体的な諸問題を理解し、自らの視点で考察していく力を養うことを目的として設定する。

達成目標

- 教育、あるいは学校の運営の仕組みについて理解できるようになること。
- 学校現場における具体的事例に対して、法的根拠に基づいた理解ができるようになること。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション (法から学ぶ教育経営)
- 第2回 教育の基本理念① (日本国憲法における教育関連規定など)
- 第3回 教育の基本理念② (教育基本法の内容、改正の論点など)
- 第4回 教育行財政① (中央・地方の教育行政組織など)
- 第5回 教育行財政② (設置者管理・負担主義など)
- 第6回 学校教育に関する規定と学校経営① (学校教育法、学校の種類など)
- 第7回 学校教育に関する規定と学校経営② (学校組織編制、校内研修、学校評価、教員評価など)
- 第8回 教職員に関する規定 (教員の職務と職務、教員免許、県費負担教職員など)
- 第9回 児童・生徒に関する規定と学級経営 (懲戒、体罰、効果的な学級経営など)
- 第10回 教育内容・教科書に関する規定 (教育課程編成、学習指導要領、教科書制度など)
- 第11回 学校保健・安全に関する規定 (伝染病予防、健康診断、学校給食など)
- 第12回 特別支援教育に関する規定 (特別支援学校制度、通級など)
- 第13回 学校の危機管理
- 第14回 保護者・地域住民と学校
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 初回授業時に紹介する。

参考書 参考書・参考資料等は授業中に適宜紹介する。

授業外での学習

授業前：関連する雑誌、新聞記事等に目を通すよう心がけること。
授業後：配布した資料等を再度確認し、学習内容の定着を図ること。

評価方法

期末試験 (60%) と平常点 (40%) により評価する。平常点は、講義内で実施するリアクションペーパー、授業態度・授業への貢献度等によって評価する。

履修上の注意

- 発言を求めることが多くなるので、自らの考えをもち、積極的に参加することを求める。
- 教育問題に関心を持ち、日頃から新聞等に目を通すことを求める。
- 授業と関係のない私語等は厳禁とする。

科目名 教育政策論
Title Educational Policies
科目区分 教職関連科目

担当教員
准教授 吉原 美那子 (ヨシハラ ミナコ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
2~4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
前期

目的

本講義は、教育行政学、教育社会学、教育制度論に基づく知識から、教育活動の枠組みとしての社会的、制度的、経営的な事項について学ぶことを目的とする。人々の学びを保障する諸条件整備のための力学と仕組みづくりを把握した上で、現代社会において教育行政機関と学校とがどのような働きをしているのかを整理し、我が国あるいは地方自治体、各地域の教育政策の方向性を研究する力を養う。加えて、諸外国の教育政策の動向を鑑み、グローバル化が進みかつ成熟された社会にとって必要な教育のあり方について考える。

達成目標

1. 公教育制度の原則、教育行政の組織と役割、学校組織の基礎的な知識を修得し理解している。
2. 現代の社会の状況と子どもの学びの環境の変化について説明することができ、それに伴って教育制度がどのように変革しているのか、かつ今の学校が抱えている問題は何なのか、自ら見出し論じることができる。
3. 学校と地域との連携の意義と課題、学校の危機管理の必要性と手法を、事例を踏まえながら論じることができる。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション: 講義の概要と進め方、評価方法の説明、公教育制度の原則、子どもと学校をめぐる状況
- 第2回 グローバル時代の教育政策①: 世界の動向、今求められる「学び」とは
- 第3回 グローバル時代の教育政策②: 日本はどちらに進むべきか?
- 第4回 国と地方自治体の教育行政の仕組み①: 教育を受ける権利の保障、教育行政の理念と定義
- 第5回 国と地方自治体の教育行政の仕組み②: 国の教育行政を担う機関
- 第6回 国と地方自治体の教育行政の仕組み③: 地方の教育行政を担う機関、地方分権と地方自治体の教育改革
- 第7回 公教育制度の原則と教育費
- 第8回 学校の組織と運営①: 学校と教育委員会との関係、法令からみる教職員、学校組織
- 第9回 学校の管理と運営②: 学校管理・運営に関する法規と運用、学校安全管理
- 第10回 学校と地域社会①: 学校と地域社会との協働をめぐる教育政策動向、意義と問題点
- 第11回 学校と地域社会②: 学校と地域づくり、協働の事例(安全管理も含む)
- 第12回 学校と地域社会③: 地域の教育施策や教育の諸課題を考える(ワークショップ)
- 第13回 新自由主義と教育政策の動向①: 行政やNPO等による子ども支援
- 第14回 新自由主義と教育政策の動向② + ワークショップ②: 学校の多様化と選択、学校改革
- 第15回 総括

教科書・参考文献

教科書 ・ 加藤崇英 (編著) 『新訂版 教育の組織と経営』学事出版、2017年

参考書 ・ 坂田仰 (他著) 『図解・表解 教育法規』教育開発研究所、2012年
・ 小松茂久 (編著) 『教育行政学』昭和堂、2013年

授業外での学習

今回の授業範囲に関連する項目について、教科書または参考書を読んでおくこと。メディア等などによる教育政策に関わる情報を収集しておくこと。授業内で課題を提示するので、必ずやってくること(課題はワークショップ等で使用する)。

評価方法

小レポートやワークショップ等における課題(40%)、期末試験(60%)を基本に、総合的に判断して評価する。

履修上の注意

ワークショップの準備として、日頃から関連する書籍や新聞、専門誌に目を通すことを期待する。授業は、履修者とのディスカッションや小レポートを通して進めていくので、それによって講義のテーマもしくは内容が前後することがあるので、留意されたい。

科目名 生涯学習概論
Title Lifelong Learning
科目区分 教職関連科目

担当教員
教授 櫻井 常矢 (サクライ ツネヤ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 要件外	単位数 2	開講時期 前期
-------------	-------------	----------	------------

目的

生涯学習とは、少子高齢化など、急激な社会構造の変化への対応という観点から、従来の日本の教育システム（学校教育・社会教育・家庭教育等）を総合的に再編成するものである。生涯学習の理念とその展開には、諸外国それぞれ固有のものがあるが、日本における生涯学習とはどのように導入され、具体的な制度・政策の中に現われているのであろうか。これを社会教育（行政・施設、地域学習等）、学校教育（教育課程、学力・評価等）の構造・変容や現代の地域づくり実践等との関連から着目し、現代社会における生涯学習の意味と展開について考察する。講義では、生涯学習論に必要な基礎知識として学校教育及び社会教育の法制度に関する説明も随時加える。

達成目標

諸外国の学習社会論などをもとに生涯学習の理念について理解を深めながら、日本の生涯学習政策の特徴や課題について整理できるようになる。

スケジュール

- 第1回 インタロクセッション：講義概要、スケジュール、評価方法等
- 第2回 学校教育と「成人の学習」：日本社会における教育・学習 コミュニティ
- 第3回 生涯学習の理念（1）：ホールラングランドレポート
- 第4回 生涯学習の理念（2）：学習社会論 / フォール報告書
- 第5回 労働社会と生涯学習：技術革新 / 情報化 / 労働市場政策
- 第6回 少子高齢化・家族の変化と生涯学習：高齢社会 / ライフコースの多様化 / 女性の生き方
- 第7回 社会教育とは何か：法制度 / 学習内容 / 方法 / 社会教育主事
- 第8回 日本における生涯学習政策の形成（1）：「生涯教育」の登場と経済界の動き
- 第9回 日本における生涯学習政策の形成（2）：臨時教育審議会答申
- 第10回 日本における生涯学習政策の形成（3）：生涯学習振興法
- 第11回 生涯学習の実践と公共性：学習内容 / 方法 / 支援者
- 第12回 リカレント教育と大学・自治体・企業：生涯学習社会に果たす大学、企業、自治体との役割
- 第13回 まちづくりと生涯学習：自治体生涯学習の特徴と課題
- 第14回 分権時代の生涯学習：分権社会による生涯学習への要請とその課題
- 第15回 まとめ：これからの生涯学習とは

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 佐々木正治編『21世紀の生涯学習』福村出版、2000年、田中雅文他著『テキスト生涯学習』学文社、2009年、『社会教育・生涯学習ガイドブック第9版』エイデル研究所、2017年 ほか。

授業外での学習

今回の講義範囲に関連する内容について、講義内で指定（配布）した資料などをよく読んで予習をしておくほか新聞やニュースなどからも積極的に情報収集すること。また講義後は、必ずノートや配布資料に目を通し学習内容の定着を図ること。

評価方法

受講状況並びに講義期間中の課題（小テスト・レポート等）そして定期試験によって総合的に評価する。受講状況と講義期間中の課題(30%)、定期試験(70%)として考慮する。

履修上の注意

特に教科書は使用せず適宜必要な資料等を多く配布するため、各自がよく整理をして積極的に講義に参加すること。

科目名 地域づくり教育論
Title Education for Community Development
科目区分 教職関連科目

担当教員 櫻井 常矢 (サクライ ツネヤ)
教授 櫻井 常矢 (サクライ ツネヤ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
2~4	要件外	2	前期

目的

近年、少子高齢化、過疎、環境問題、国際化、子育てなどの地域課題の深刻化とともに、市民参加や協働(パートナーシップ)によるまちづくり、青年世代や団塊世代の労働や社会参加、あるいは、地域コミュニティの再生・創造に向けた様々な実践が各地で展開しつつある。そこではまた、地域づくりに対応した学習や社会参加活動が実践的に追求されている。社会参加の推進は生涯学習社会を具体的に支える重要な要素となる。本講義では、ボランティア(図書館・博物館等の施設ボランティア含む)、市民活動・NPO、学社融合、大学開放などの新たな社会をつくる学びについて着目し、その特性への理解を深める。特に、NPOの教育力を取り上げ、地域づくりにかかわる具体的な実践をもとに、現代社会における学習の共同性や公共性を再検討し、分権時代に果たす生涯学習の役割を展望する。

達成目標

日本の生涯学習政策が抱える課題への理解を前提としながら、①NPOがもつ教育力特性への理論的理解を深めること、②具体的事例の検討を通して、現代生涯学習に果たすNPOの可能性と課題について自分なりの見解を得ることを到達目標とする。

スケジュール

- 第1回 インタロダクション : 講義概要、スケジュール、評価方法等
- 第2回 生涯学習政策の展開と市民の学び : 国家・市場・地域と教育・学習 コミュニティ
- 第3回 ボランティア・NPOと生涯学習 : なぜ今、NPOなのか / NPOの実践と生涯学習
- 第4回 生涯学習社会と地域づくり教育(1) : 家庭教育・学校教育・地域づくり教育
- 第5回 生涯学習社会と地域づくり教育(2) : Non Formal Educationの構造と機能
- 第6回 NPO / 市民活動の学習内容・方法(1) : NPOの組織特性・社会教育的性格
- 第7回 NPO / 市民活動の学習内容・方法(2) : NPOの組織構造と「参加」
- 第8回 規制緩和・地方分権と生涯学習 : 民営化戦略としてのNPO
- 第9回 NPOの教育力 実践事例(1) : 地域コミュニティ再生とNPO
- 第10回 NPOの教育力 実践事例(2) : 社会教育施設運営とNPO
- 第11回 NPOの教育力 実践事例(3) : 中間支援組織(施設)における教育・学習
- 第12回 NPOの教育力 実践事例(4) : 地域生涯学習を支える人材・組織の課題と展望
- 第13回 地域コミュニティ再生と生涯学習 : 東日本大震災・復興支援の実践から
- 第14回 分権社会における生涯学習システム 地域をつくる市民の学び
- 第15回 まとめ : 現代生涯学習の展望と課題

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 下記のほか適宜紹介する。佐藤一子編『NPOの教育力』東京大学出版会,2004年、松田武雄編著『現代の社会教育と生涯学習』九州大学出版会,2013年

授業外での学習

今回の講義範囲に関連する内容について、講義内で指定(配布)した資料などをよく読んで予習をしておくほか新聞やニュースなどからも積極的に情報収集すること。また、講義後は必ずノートや配布資料に目を通し学習内容の定着を図ること。

評価方法

受講状況並びに講義期間中の課題(小テスト・レポート等)そして定期試験によって総合的に評価する。受講状況と講義期間中の課題(30%)、定期試験(70%)として考慮する。

履修上の注意

- ◇生涯学習概論の内容を前提とした講義展開のため、生涯学習概論を受講していることが望ましい。
- ◇講義は、適宜必要な資料等を取り上げるとともに、できるだけ具体的な事例に即して考えていく。

科目名 教育制度論
Title The Educational System
科目区分 教職関連科目

担当教員
非常勤講師 高橋 望 (タカハシ ノゾム)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 要件外	単位数 2	開講時期 前期
-------------	-------------	----------	------------

目的

近年教育改革は、国と地方問わずさまざまなレベルにおいて重要な課題として取り組まれている。改革をめぐる議論において何が問題とされ、何が行われようとしているのか。また、改革は結果として教育の場に何をもちたらずのか。本講義は、現代社会における教育問題・事象について理解し、それらに対する自分自身の考えを持つこと、また他者と議論できるようになることを目指す。身の回りの「教育的」事項に気づき理解できるようになること、現代の教育の仕組み、制度について理解できるようになること、自分自身の教育観を持つことができるようになることを目的とする。

達成目標

- 現代の教育の制度について、理解することができること。
- 公立初等中等学校の現状、抱える問題等について理解することができること。
- それらに対する自分自身の考えを持ち、他者と議論できるようになること。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教育の領域・場所・目的
- 第3回 学校制度と義務教育
- 第4回 教育制度・行政・政策
- 第5回 学校組織と学校経営
- 第6回 教師教育
- 第7回 教育課程と学力問題
- 第8回 学歴と社会階層
- 第9回 メディアと教育
- 第10回 外国人子女と学校教育
- 第11回 公立学校の実態
- 第12回 公立学校教員の職務実態と教員文化
- 第13回 生涯学習社会
- 第14回 子どもの貧困と教育
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 初回授業時に紹介する。

参考書 参考書・参考資料等は授業中に適宜紹介する。

授業外での学習

授業前：関連する雑誌、新聞記事等に目を通すよう心がけること。
授業後：配布した資料等を再度確認し、学習内容の定着を図ること。

評価方法

試験、あるいはレポート（60%）と平常点（40%）により総合的に評価する。平常点は、講義内で実施するリアクションペーパー（小課題）、授業態度・授業への貢献度等によって評価する。

履修上の注意

- 発言を求められることが多くなるので、自らの考えをもち、積極的に参加することを求める。
- 教育問題に関心を持ち、日頃から新聞等に目を通すことを求める。
- 授業と関係のない私語等は厳禁とする。

科目名 発達心理学
Title Developmental Psychology
科目区分 教職関連科目

担当教員
非常勤講師 小池 庸生 (コイケ ノブオ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1~4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
後期

目的

人間を理解するために、行動や心的機能の発生・発達成熟過程の一般的法則および各発達段階における心身の発達と学習の過程を学ぶと共に、障害者(児)の心身の発達・学習過程についても学ぶ。

達成目標

発達とは何かということから始めて、人の一生についての理解を深めること、さらに自分の将来像を構築するための指標にできることを目標とする。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション、講義概要、スケジュール、評価方法等
- 第2回 I. 発達心理学の基礎 1
- 第3回 I. 発達心理学の基礎 2
- 第4回 II. 身体と運動機能の発達 1
- 第5回 II. 身体と運動機能の発達 2
- 第6回 II. 身体と運動機能の発達 3
- 第7回 III. 知的機能の発達 1
- 第8回 III. 知的機能の発達 2
- 第9回 III. 知的機能の発達 3、IV. 人間性の発達 1
- 第10回 IV. 人間性の発達 2
- 第11回 IV. 人間性の発達 3、V. 社会性の発達 1
- 第12回 V. 社会性の発達 2
- 第13回 V. 社会性の発達 3、VI. 発達と学習 1
- 第14回 VI. 発達と学習 2、VII. 発達の障害と問題 1
- 第15回 VII. 発達の障害と問題 2、まとめ

教科書・参考文献

教科書 使用しない

参考書 適宜、講義内で紹介する

授業外での学習

発達心理学に関係する本を読むこと。
理解を薦めるために、子どもから大人までの行動をよく観察してみること。

評価方法

定期試験が80%、講義内課題等授業に取り組む態度が20%

履修上の注意

そのときどきの状況や必要性に応じて、授業計画を変更して行うことがある。

科目名 特別支援教育
Title Special Needs Education
科目区分 教職関連科目

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 五十嵐 一徳 (イガラシ カズノリ)
非常勤講師 村田 美和 (ムラタ ミワ)

E-Mail

配当年次 1~4 単位区分 要件外 単位数 2 開講時期 後期

目的

本講義は、特別な支援を必要とする子どもの教育を支える制度や教育上の仕組み、教育指導法の基礎的な知識と理解を得ることを目的とする。

達成目標

- ①通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難を理解する。
- ②個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。

スケジュール

- 第1回 特別の支援を必要とする子ども理解とは (担当: 五十嵐一徳)
第2回 特別支援教育の概要とシステム (担当: 五十嵐一徳)
第3回 子ども理解 (1) 自閉症スペクトラム障害・知的障害 (担当: 五十嵐一徳)
第4回 子ども理解 (2) 言語障害・情緒障害 (担当: 五十嵐一徳)
第5回 通常学級や通級指導教室等における教育的支援 (1) 個別の指導計画に基づく支援 (担当: 五十嵐一徳)
第6回 子ども理解 (3) LD・ADHD (担当: 村田美和)
第7回 子ども理解 (4) 肢体不自由・病弱 (担当: 村田美和)
第8回 子ども理解 (5) 視覚障害・聴覚障害 (担当: 村田美和)
第9回 子ども理解 (6) その他多様な状態を併せもつ子ども (担当: 村田美和)
第10回 子ども理解 (7) 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある子ども (担当: 村田美和)
第11回 関係機関との連携 (担当: 五十嵐一徳)
第12回 通常学級や通級指導教室等における教育的支援 (2) ICT等の活用による支援 (担当: 村田美和)
第13回 中学校・高等学校における特別な支援を必要とする生徒への支援 (担当: 村田美和)
第14回 就労に向けた支援 (担当: 村田美和)
第15回 特別の支援を必要とする子どものいる家族支援 (担当: 五十嵐一徳)

教科書・参考文献

教科書 テキストはないが、必要に応じて資料を担当教員が配布する。

参考書 はじめての特別支援教育 改訂版
(柘植雅義・渡部匡隆・二宮信一・納富恵子編著, 有斐閣)

授業外での学習

授業前: 関連するニュース等を視聴するよう心がけること。
授業後: 配布した資料等を確認し、学習内容の定着を図ること。

評価方法

定期試験70%と毎回のリアクションペーパー30%で評価する。
総合評価60%以上を合格とする。

履修上の注意

シラバスの内容や順序は、本講義の目的を逸脱しない範囲で変更されることがある。

科目名 カリキュラム論
Title Curriculum Studies
科目区分 教職関連科目

担当教員
名誉教授 池野 正晴 (イケノ マサハル)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 要件外	単位数 2	開講時期 後期
-------------	-------------	----------	------------

目的

資質・能力ベースの学習指導要領が告示され、新しい時代を迎えようとしている。これにより、各学校におけるカリキュラムが大きく変化してくるものと思われる。
授業では、学校現場における教員経験を活かしながら、学習指導要領を基準に各学校において編成されるカリキュラムについて、その意義や編成の方法、学習指導要領との関係、学習指導要領の変遷、カリキュラム・マネジメント等について考察を進めていくものとする。

達成目標

- 学校教育においてカリキュラムが果たす役割・機能・意義について理解できる。
- カリキュラム編成の基本原則及び学校の教育実践に即したカリキュラム編成の方法について理解できる。
- 教科・領域・学年をまわってカリキュラムを把握し、学校教育全体をマネジメントすることの意義について理解できる。

スケジュール

- 第1回 「ある実践」からカリキュラムのあり方を考える
- 第2回 「カリキュラム論」×チェック(学習指導要領の変遷等)
- 第3回 いま、なぜ「カリキュラム」か - カリキュラム・マネジメント -
- 第4回 資質・能力ベースの学習指導要領と「総則」の読み方
- 第5回 学習指導要領の変遷I - 経験カリキュラム -
- 第6回 学習指導要領の変遷II - 学問中心カリキュラム -
- 第7回 学習指導要領の変遷III - 人間性中心カリキュラム -
- 第8回 カリキュラムにおける内容選択の基準と編成の原理
- 第9回 子どもの発達と教科書
- 第10回 教育環境と達成されたカリキュラム
- 第11回 カリキュラムの履修スタイル
- 第12回 教科カリキュラムと教科外カリキュラム
- 第13回 今日的課題への挑戦 - 近年のカリキュラム改革 -
- 第14回 諸外国のカリキュラム改革
- 第15回 総合討論 - カリキュラムづくりでたいせつにしたいこと -

教科書・参考文献

- 教科書
- 池野正晴『カリキュラム論』(池野作成の授業用冊子/配付)
 - 田中耕治編『よくわかる教育課程(改訂版)』、ミネルヴァ書房、2018年
- 参考書
- 文科省『中学校学習指導要領解説・総則編』、東山書房、2018年
 - 文科省『高等学校学習指導要領解説・総則編』、東洋館出版社、2019年

授業外での学習

- ① 次回の授業内容を確認し、その範囲を読み、そこでの専門用語等の意味を調べ、理解しておく。(予習)
- ② 授業後、授業内容を振り返り、重要事項をノートにまとめる。

評価方法

- レポート(作成、発表、ミニレポート) 50%
- プレゼン(資料作成、プレゼン内容、代表コメント) 40%
- グループシェア、コメント、貢献度等 10%

履修上の注意

- チームで協力して、与えられたテーマについてレポートを作成し、プレゼンをする。
- めざす教師・学ぶ学生として求められる「学ぶ力」(資質・能力)を鍛えることも射程に入れていく。
- グループ討論では、積極的に参加し、自分の意見を表現し、相手の意見も尊重して聴くようにする。

科目名 道德教育論
Title Moral Education
科目区分 教職関連科目

担当教員
非常勤講師 中山 和彦 (ナカヤマ カズヒコ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1~4	要件外	2	前期

目的

栃木県小山市立公立小学校、宇都宮大学教育学部附属小学校における教員・管理職経験及び小山市教育委員会指導主事としての教育施策立案経験を生かし、学校教育全体で行う道德教育とその要となる「特別の教科 道德」(以下 道德科とする)の意義と指導法、道德科授業の目標と指導法、学習指導案作成の手順と方法について指導する。また、道德の特別教科化の大きな要因となった「いじめ」の未然防止及び対処について、道德教育の観点から考える。

達成目標

(1) 道德の特別教科化の経緯を理解できるようになる。(2) 学校教育全体で行う道德教育の目標を理解できるようになる。(3) 道德教育の要となる道德科の目標を理解できるようになる。(4) 道德科授業の進め方と学習指導案作成の手順と方法が分かるようになる。(5) 「いじめ」の未然防止及び対処法について理解できるようになる。

スケジュール

- 第1回 道德及び道德教育の本質
- 第2回 道德性とは何か、道德性の発達と教育、教育基本法と道德教育
- 第3回 道德の特別教科化の経緯、道德教育と道德科の目標、道德の指導計画
- 第4回 道德科の特質、道德の内容と基本的性格
- 第5回 「いじめ」と道德教育、「いじめ」の未然防止及び対処法と学級経営における道德教育の進め方
- 第6回 担当者による模擬授業「いじめの未然防止」を基に、道德科授業の進め方を理解する
- 第7回 道德科授業における指導過程の基本型、道德科の特質を大切にした柔軟な授業構想(第1回 「自我関与」を中心に)
- 第8回 道德科の特質を大切にした柔軟な授業構想(第2回 問題解決的な学習)、学習指導案作成の内容と方法(第1回)
- 第9回 学習指導案作成の内容と方法(第2回)、本時の展開案作成(グループ協議、個別指導)(第1回)
- 第10回 本時の展開案作成(グループ協議、個別指導)(第2回)、本時の展開についてポイントをまとめる
- 第11回 道德科の板書の理論と方法、代表者による模擬授業と全体協議(第1回)
- 第12回 代表者による模擬授業と全体協議(第2回)、道德科授業づくりのポイント
- 第13回 道德教育の評価の本質、道德科授業づくりと評価(第1回)
- 第14回 道德科授業づくりと評価(第2回)
- 第15回 道德科授業づくりと評価(指導要録と学びの姿への記述)、講義全体のまとめ

教科書・参考文献

- 教科書 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道德編(文部科学省)発行所 教育出版
(担当者が講義に関係するところを印刷して配布する。)
- 参考書 『私たちの道德 中学校』 文部科学省

授業外での学習

- ・ 次回に使用する資料を事前に配付し、予習内容を指示する。
- ・ 講義で示す「重要事項」の内容等について復習内容をする。

評価方法

定期試験80%、受講態度20%(リアクションカード記述内容に自身の考えを明記10%、自ら発言する等の態度10%)計100%

履修上の注意

- ・ 道德は、教師と生徒共通の課題であることを自覚して講義に臨む。
- ・ 中学校の教室と同じ状況をつくり、生徒への関わり方を学べるようにする。(道德教育と学級経営について)
- (・ 講義担当者として「遅刻なし、延長なし」を守る。学生は私語厳禁、話を聴く力、自らの考えを表現する力を身に付けることに力を入れること。

科目名 総合的な学習の時間の指導法
Title Teaching Method of Period for Integrated Studies
科目区分 教職関連科目

担当教員
非常勤講師 田口 哲男 (タグチ テツオ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1~4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
後期

目的

本授業の目的は、中学校・高等学校における総合的な探究(学習)の時間の意義や課題を理解するとともに、学校での経験を元にした学び等も踏まえて、実践的指導力を養うことである。

達成目標

学習指導要領改訂の経緯、育成を目指す資質・能力、主体的・対話的で深い学びの実現に向けての授業改善などを理解し、それを基盤に、総合的な探究に時間について、それぞれの目標、学習の過程や見方・考え方を理解する。総合的な学習の時間では、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく問題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。

スケジュール

- 第1回： 授業全体の概要、教育改革の必要性、学習指導要領改訂の経緯
 - 第2回： 学習指導要領改訂の基本方針、育成を目指す資質・能力とその明確化
 - 第3回： 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、カリキュラム・マネジメント
 - 第4回： 教育課程（各教科・科目、道徳教育、総合的な探究の時間、特別活動）、教育課程における総合的な学習の時間、特別活動の位置付けと教科・科目等との関連
 - 第5回： 総合的な学習の時間と総合的な探究の時間の目標とその違い
 - 第6回： 総合的な探究(学習)の時間の特質、見方・考え方、探究の学習過程
 - 第7回： 総合的な探究(学習)の時間の構造と指導計画の作成のための配慮事項
 - 第8回： 総合的な探究(学習)の時間の内容の取扱いについての配慮事項
 - 第9回： 総合的な探究(学習)の時間の実施上の課題及びその方策
 - 第10回： 考えるための技法及びその活用
 - 第11回： 総合的な探究(学習)の時間の意義
 - 第12回： 総合的な探究(学習)の時間の実施上の課題及びその方策
 - 第13回： 総合的な探究(学習)時間における指導上のポイント
 - 第14回： 総合的な探究(学習)時間を充実させるための体制づくり
 - 第15回： 総合的な探究(学習)時間における評価(多面的・多角的な評価等)
- 定期試験

教科書・参考文献

- 教科書 『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編及び総則編(平成29年7月)』文部科学省
『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編及び総則編(平成30年7月)』(文部科学省)
- 参考書 「高校における学びと技法」田口哲男(一藝社)2019年

授業外での学習

中学校または高等学校の学習指導要領解説 総合的な探究(学習)の時間編、「高校における学びと技法」を精読し、その内容を踏まえて授業に臨むこと。

評価方法

「筆記試験(60%)」、「課題、授業での行動・態度等及びリフレクションシート(40%)」

履修上の注意

授業はもとより事前事後学修で見直しや振り返りを行うこと。なお、グループワークの仕方等や本時の到達目標の達成度はリフレクションシートの自己評価により振り返ること。「高校における学びと技法」については課題とするので精読しレポートを作成し提出すること。

科目名 特別活動
Title Extraclass Activities
科目区分 教職関連科目

担当教員
非常勤講師 田口 哲男 (タグチ テツオ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 要件外	単位数 2	開講時期 前期
-------------	-------------	----------	------------

目的

改訂された学習指導要領の特別活動の第1「目標」を踏まえ、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせ、各活動・学校行事で生じる多様な集団において、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の3つの視点を手掛かりとしながら、集団や自己の生活上の課題を解決する学習の過程を通して資質・能力を育成することについて学ぶ。

達成目標

「学習指導要領改訂の経緯や方針」「集団や社会の形成者としての見方・考え方」「育成を目指す資質・能力」等を知識として理解するとともに、自身の中学・高校での経験を基に各活動や学校行事より生じる多様な集団において発見した課題を解決する学習の過程を通すことにより、特別活動で目指す資質・能力を育成するための指導の仕方を講義やグループワークにより学ぶ。また、毎回のグループワークを通して主体性、協働性、多様性をつける

スケジュール

- 第1回 授業全体の概要、教育改革の必要性、学習指導要領改訂の経緯
- 第2回 学習指導要領改訂の基本方針、改訂の要点
- 第3回 学力の3要素、育成を目指す資質・能力とその明確化
- 第4回 教育課程（各教科・科目、道徳教育、総合的な探究の時間、特別活動）
- 第5回 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、カリキュラム・マネジメント
- 第6回 特別活動にかかると改訂の趣旨及び要点
- 第7回 特別活動の目標（学習の過程・育成を目指す資質・能力など）
- 第8回 特別活動全体と各活動・学校行事との関連、特別活動における「主体的・対話的で深い学び」
- 第9回 特別活動の基本的な性格と教育活動全体の中での特別活動の意義
- 第10回 特別活動と各教科、道徳科及び総合的な学習の時間などとの関連
- 第11回 ホームルーム/学級活動の目標、内容、指導計画
- 第12回 生徒会活動の目標、内容、指導計画
- 第13回 学校行事の目標、内容、指導計画
- 第14回 特別活動の配慮事項
- 第15回 特別活動における評価

教科書・参考文献

- 教科書 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編（平成29年7月）
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 特別活動編（平成30年7月）
- 参考書 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編（平成29年7月）、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編（平成30年7月）、「高校における学びと技法」田口哲男（一藝社）2019年

授業外での学習

中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編と総則編、「高校における学びと技法」を精読する。なお、「高校における学びと技法」についてはレポート課題あり評価の対象とする

評価方法

「グループワークの状況、リフレクションシートの提出、レポートの提出」（40%）、「期末試験の結果」（60%）。

履修上の注意

講義終了後のリフレクションシートは毎回提出する。

科目名 教育方法学
Title Methodology of Teaching
科目区分 教職関連科目

担当教員 内山 知一 (ウチヤマ トモカズ)
准教授 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1~4	要件外	2	前期

目的

授業法やその変遷、背景にある諸理論等を把握することで、教育方法・技術についての基礎知識を習得し、学校での経験を元にした学び等も踏まえて、授業づくりに必要なスキルを身に付ける。

達成目標

1. 授業法やその変遷等についての基礎知識を習得する。
2. 授業事例をさまざまな観点でとらえる。
3. 学習指導案作成や優れた授業の特徴の把握によって、情報機器の扱いも含む、授業づくりに必要なスキルを身に付ける。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 授業の歴史・新動向(1)
- 第3回 授業の歴史・新動向(2)
- 第4回 さまざまな学習形態とその理論
- 第5回 授業の技術(発問、板書等)と子どもの意欲
- 第6回 有効な教材とその準備
- 第7回 学習環境(学級、教室等)の多様化
- 第8回 メディアリテラシー
- 第9回 ICTとその利点・課題
- 第10回 学習評価のあり方
- 第11回 授業設計(1)学習指導案の作成
- 第12回 授業設計(2)学習指導案の発表
- 第13回 授業設計(3)授業デザインの振り返り
- 第14回 授業設計(4)改善のためのポイント
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 適宜資料を配布する。

参考書 文部科学省『中学校学習指導要領』(平成29年告示)
文部科学省『高等学校学習指導要領』(平成30年告示)

授業外での学習

事前・事後の予習・復習をしっかりと行うこと。

評価方法

参加度(発表や提出物等:60%)
レポート(40%)

履修上の注意

やむを得ない場合を除き、遅刻・欠席はしないこと。受講人数・進捗度合等によって、進行順等が前後することがある。

科目名 教育測定及び方法
Title Educational Measurement and Method
科目区分 教職関連科目

教授 担当教員 木下 まゆみ (キノシタ マユミ) 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4 単位区分 要件外 単位数 2 開講時期 前期

目的

この科目では、教育において必要な測定法と評価について学習する。具体的には、1.教育測定と教育評価、2.性格、3.知能、4.統計、5.データ分析に関して学習する。各回の授業は、時間内でレポートを作成、提出する。提出されたレポートは次週評価とともに返却する。この一連の作業により、文章力の向上を目指すことも本授業の目的とする。

達成目標

教育評価に関する各種理論の知識を深め、実践に貢献する教育評価のあり方を理解する。統計学的な知識およびパソコンによる統計技能を習得する。授業内レポート作成を通じて、文章力の向上を図る。

スケジュール

- 第1回 教育測定の概要 - 測定と評価 -
- 第2回 授業内レポートの書き方
- 第3回 教育評価の種類1 相対評価と絶対評価
- 第4回 教育評価の種類2 パフォーマンス評価
- 第5回 知能の理論1 (検査法)
- 第6回 統計学の基礎知識1 (Σ 計算、平均と分散)
- 第7回 統計学の基礎知識2 (標準化、偏差値)
- 第8回 統計学実習① (小テスト、平均、SD)
- 第9回 統計学実習② (標準得点、偏差値)
- 第10回 人格検査実習① (測定実習、表の作成)
- 第11回 人格検査実習② (関数の利用、検査結果の判断)
- 第12回 知能・人格の理論 - 遺伝説と環境説 -
- 第13回 教育評価の実際 (学級運営)
- 第14回 教育評価の活用 (評価と実践の連携)
- 第15回 総括授業

教科書・参考文献

教科書 授業中にプリントを配布する。

参考書 田中 耕治 『教育評価』 岩波書店
吉田 寿夫 『本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』 北大路書

授業外での学習

返却したレポートの講評をよく読み、文章作成についての理解を深めること。できるかぎり再提出を図ること。

評価方法

授業内レポート (70%)、実習レポート (20%)、および小テスト (10%)。期末試験は課さない。

履修上の注意

統計学実習の回はPCを使うため、教室を変更します。移動先は授業内で指示するので注意して下さい。

科目名 生徒・進路指導論
Title Student Guidance and Carrier Guidance
科目区分 教職関連科目

担当教員 山口 知彦 (ヤマグチ トモヒコ)
非常勤講師 山口 知彦 (ヤマグチ トモヒコ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1~4	要件外	2	前期

目的

県立高校での勤務経験（教員・管理）及び教育行政での政策立案経験を活かし、現場に必要な児童生徒の人間形成を図る考え方や指導法及び現代的教育課題に精通できるように講義をする。講義では、生徒指導・進路指導の意義・原理や具体的な指導の基礎を学び、将来の教育者としてさらに学び続けるための踏み台とする。

達成目標

- 1 生徒指導の意義や原理、生徒指導の進め方及び生徒理解の方法を理解する。
- 2 生徒指導に基づく学級（ホームルーム）経営の方法や生徒指導上の諸課題への対応の在り方を理解する。
- 3 進路指導・キャリア教育の意義やねらい・進め方を理解する。
- 4 児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解する。

スケジュール

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 科目ガイダンス、生徒指導の今日的な課題検討、生徒指導・進路指導の重要性 |
| 第2回 | 生徒指導の意義と目的、学習指導要領と生徒指導提要の視点 |
| 第3回 | 生徒指導の方法（生徒理解と生徒指導体制）、生徒指導の法制 |
| 第4回 | 学校と家庭・地域社会との連携、生徒指導の在り方と課題 |
| 第5回 | 生徒指導の事例研究①（不登校、いじめ、ネット問題） |
| 第6回 | 生徒指導の事例研究②（暴力行為、校則違反、中途退学） |
| 第7回 | 教育相談の意義と目的、教育相談の在り方と課題 |
| 第8回 | 進路指導・キャリア教育の意義と目的 |
| 第9回 | 職業選択理論と職業適応理論及び職業的発達と自己概念の形成 |
| 第10回 | キャリア教育の実践と理論 |
| 第11回 | キャリア発達に併せた実践、フリーター・ニート問題への対応（事例研究） |
| 第12回 | 学級（ホームルーム）経営の意義と目的、学級（ホームルーム）経営理論と方法 |
| 第13回 | 生徒指導に基づく学級（ホームルーム）経営の進め方・評価
クラスづくりのポイント（事例研究） |
| 第14回 | 学級（ホームルーム）経営の在り方と課題、学級崩壊への対応（事例研究） |
| 第15回 | 特別支援が必要な生徒への対応、学校安全と危機管理 |

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。配布プリントに沿って講義を進める。

参考書 「生涯学習時代の生徒指導・キャリア教育」編者 西岡正子、桶谷守 教育出版
「中学校学習指導要領解説・高等学校学習指導要領解説」（総則編） 文部科学省

授業外での学習

次の講義の内容についての関連書籍及び講義プリント（事前配布）を一読するとともに、その内容にかかわること、過去身近に起こった事例があれば教師の視点でその事例の分析と対応を検討する。

評価方法

期末テスト 60%、日常点（課題・レポート、取組状況等）40%

履修上の注意

今日の教育問題に日頃より注目しつつ、授業には常に課題意識をもって臨み、緊張感と集中力のある授業態度で積極的に取り組むこと。特に、遅刻、欠席、私語、携帯電話等は厳に慎み、学生としてのマナーを守ること。

科目名 教育相談
Title School Counseling
科目区分 教職関連科目

担当教員
非常勤講師 泰居 克明 (タイイ カツアキ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 要件外	単位数 2	開講時期 前期
-------------	-------------	----------	------------

目的

教育相談は、一人一人の生徒の教育上の問題について、本人またはその親などに、その望ましい在り方を助言することである。その方法としては、個別の相談活動に限定することなく、すべての教師が生徒に接するあらゆる機会を捉え、あらゆる教育の実践の中に生かし、教育相談的な配慮をすることが重要である。したがって、教育相談は、生徒それぞれの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格の成長の援助を図るものである。

学校における教育相談は、専門機関のように本人や保護者から自発的に来るのを待つだけでなく、小さな兆候を捉えて事案に応じて適切に対応し、深刻な状態になる前に早期に対応することが可能である。そこで、学級担任、様々な立場の教師の日常のかわりの持ち方をはじめとする教育相談の知識や技能を身に付ける。

達成目標

教育相談、学校カウンセリング及び生徒指導の教育的意義を押さえ、その機能を生かして生徒が学校生活において適応できるよう、実践的な技法を身につける。また、不適応を起こした場合の対応等についても理解する。

スケジュール

- 第1回 学校における教育相談の歩み・学校における教育相談の意義と役割
- 第2回 学校における教育相談の基本
- 第3回 場面に応じた教育相談の進め方
- 第4回 教育相談の考え方・方法を生かした教育活動の展開
- 第5回 教育相談に役立つ学習理論等の応用及び演習①
- 第6回 教育相談に役立つ学習理論等の応用及び演習②
- 第7回 教育相談に役立つ学習理論等の応用及び演習③
- 第8回 教育相談の充実のための校内体制の在り方
- 第9回 校内の指導体制における教育相談部の在り方
- 第10回 校内の指導体制における教育相談部の連携の在り方
- 第11回 教育相談室の運営
- 第12回 保護者や地域及び関係機関との連携の進め方
- 第13回 教育相談研修の在り方・進め方
- 第14回 教育相談の評価の在り方・進め方
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 特になし (講義時に資料配付)

参考書 「生徒指導提要」等文科省刊行図書など

授業外での学習

適宜、講義内容に関する課題等を課す

評価方法

受講状況 (15%)、講義時のレポート作成 (15%)、定期試験の結果 (70%) 等により総合的に評価する

履修上の注意

評価の対象となるには、原則として講義 2 / 3 以上の出席 (受講) を要する

科目名 教育実習I
Title Practice Teaching I
科目区分 教職関連科目

担当教員
准教授 内山 知一 (ウチヤマ トモカズ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
要件外

単位数
5

開講時期
通年

目的

教育実習の事前準備・事後省察によって、自らが改善すべき点や教員として必要な技能、知識等を把握し、学校での経験を元にした学び等も踏まえて、教職に最低限求められる力を身に付ける。

達成目標

1. 学校現場において教員の仕事を構成する多様な要素（教科指導、生徒指導、校務分掌、特別活動、委員会活動、部活動等）を把握する。
2. 実習後の振り返り等によって、教員として改善すべき点に気づき、自らの資質・能力を高める。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス（前期）
- 第2回 教員の多様な仕事と教育実習
- 第3回 実習での注意点と身に付けるべき力
- 第4回 学習指導要領の概観
- 第5回 学習指導案の作成
- 第6回 模擬授業（1）
- 第7回 模擬授業（2）
- 第8回 模擬授業（3）
- 第9回 模擬授業（4）
- 第10回 模擬授業（5）
- 第11回 模擬授業（6）
- 第12回 模擬授業（7）
- 第13回 模擬授業（8）
- 第14回 模擬授業（9）
- 第15回 模擬授業（10）
- 第16回 ガイダンス（後期）
- 第17回 実習後の改善点把握（1）授業面：学習指導案について
- 第18回 実習後の改善点把握（2）授業面：学習指導案について
- 第19回 実習後の改善点把握（3）授業面：教材について
- 第20回 実習後の改善点把握（4）授業面：教材について
- 第21回 実習後の改善点把握（5）授業面：発問について
- 第22回 実習後の改善点把握（6）授業面：発問について
- 第23回 実習後の改善点把握（7）教員の仕事の特性について
- 第24回 実習後の改善点把握（8）教員の仕事の特性について
- 第25回 実習後の改善点把握（9）これまでの経験も踏まえた総括
- 第26回 実習後の改善点把握（10）これまでの経験も踏まえた総括
- 第27回 現在の学校に必要なスキル（1）
- 第28回 現在の学校に必要なスキル（2）
- 第29回 実習後に取り組むべきことの確認と改善・向上に向けた計画立案
- 第30回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 適宜資料を配布する。

参考書 必要に応じて適宜指定する。

授業外での学習

事前・事後の予習・復習をしっかりと行うこと。

評価方法

参加度（模擬授業や提出物等：60%）
レポート（40%）

履修上の注意

やむを得ない場合を除き、遅刻・欠席はしないこと。受講人数・進捗度合等によって、進行順等が前後することがある。

科目名 教育実習II
Title Practice Teaching II
科目区分 教職関連科目

担当教員
准教授 内山 知一 (ウチヤマ トモカズ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
要件外

単位数
3

開講時期
通年

目的

教育実習の事前準備・事後省察によって、自らが改善すべき点や教員として必要な技能、知識等を把握し、学校での経験を元にした学び等も踏まえて、教職に最低限求められる力を身に付ける。

達成目標

1. 学校現場において教員の仕事を構成する多様な要素（教科指導、生徒指導、校務分掌、特別活動、委員会活動、部活動等）を把握する。
2. 実習後の振り返り等によって、教員として改善すべき点に気づき、自らの資質・能力を高める。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス（前期）
- 第2回 教員の多様な仕事と教育実習
- 第3回 実習での注意点と身に付けるべき力
- 第4回 学習指導要領の概観
- 第5回 学習指導案の作成
- 第6回 模擬授業（1）
- 第7回 模擬授業（2）
- 第8回 模擬授業（3）
- 第9回 模擬授業（4）
- 第10回 模擬授業（5）
- 第11回 模擬授業（6）
- 第12回 模擬授業（7）
- 第13回 模擬授業（8）
- 第14回 模擬授業（9）
- 第15回 模擬授業（10）
- 第16回 ガイダンス（後期）
- 第17回 実習後の改善点把握（1）授業面：学習指導案について
- 第18回 実習後の改善点把握（2）授業面：学習指導案について
- 第19回 実習後の改善点把握（3）授業面：教材について
- 第20回 実習後の改善点把握（4）授業面：教材について
- 第21回 実習後の改善点把握（5）授業面：発問について
- 第22回 実習後の改善点把握（6）授業面：発問について
- 第23回 実習後の改善点把握（7）教員の仕事の特性について
- 第24回 実習後の改善点把握（8）教員の仕事の特性について
- 第25回 実習後の改善点把握（9）これまでの経験も踏まえた総括
- 第26回 実習後の改善点把握（10）これまでの経験も踏まえた総括
- 第27回 現在の学校に必要なスキル（1）
- 第28回 現在の学校に必要なスキル（2）
- 第29回 実習後に取り組むべきことの確認と改善・向上に向けた計画立案
- 第30回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 適宜資料を配布する。

参考書 必要に応じて適宜指定する。

授業外での学習

事前・事後の予習・復習をしっかりと行うこと。

評価方法

参加度（模擬授業や提出物等：60%）
レポート（40%）

履修上の注意

やむを得ない場合を除き、遅刻・欠席はしないこと。受講人数・進捗度合等によって、進行順等が前後することがある。

科目名 教職実践演習(中・高)
Title Seminar of Teacher Professional Practice
科目区分 教職関連科目

担当教員
非常勤講師 泰居 克明 (タイイ カツアキ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
4	要件外	2	後期

目的

教育実践演習は、教職課程における「学びの軌跡の集大成」として位置づけられている。教職課程の科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて、学生が身につけた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され形成されていることを最終的に確認するものである。将来、教員になるにあたり自分にとって何が課題であるのか、不足している知識や技能は何かを探り出し、それらを本演習で補い定着を図ることが目的である。

達成目標

教員として必要な次の4項目の資質を確認する。
①教職に対する使命感や責任感、教育的愛情が豊かであること ②社会性や対人関係能力が適切であること
③生徒理解や学級経営等に関する資質を身につけていること ④教科等の指導に対する技能・知識を習得していること

スケジュール

- 第1回 「教職実践演習」の目的、計画と進め方についての説明等。
第2回 これまで教職課程で学んできたことの確認。
第3～5回 教育実習修了者の体験報告を通して、各学校の取り組みや実践、実習生としての活動等を確認し、今日の子どもの特性や教員の役割についてロールプレイやディスカッション等により考えを深める。
第6～8回 学校現場の理解：現地調査（フィールドワーク）やゲストスピーカーによる講話を通して、次の4項目を理解しているか確認する。
①教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務
②教員組織における自己の役割や他の教職員と協力した校務運営の重要性
③保護者や地域との連携・協力の重要性
④社会人としての基本マナー
第9～12回 教科等の指導研究：模擬授業やグループ活動を通して、次の3つを研究する。
①学習指導の基本的事項（教科等の知識や技能等）
②教材研究の方法や、教材、教具、学習形態等を考慮した学習指導案の作成
③教員としての表現力や授業力、子どもの反応を生かした授業づくり
第13～14回 教育的課題の考察：生徒理解と学級経営のなかで生じる問題、生徒の問題行動、いじめや不登校、特別支援教育等の今日的な教育課題について事例研究を通して考察する。
第15回 研究発表会（最終プレゼンテーション）
これから教員として基本的な資質・能力が一般的に備わっているかを確認する。

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 授業内で紹介する。

授業外での学習

〈授業を始める前に〉教育実習について各自で記録のまとめをしておくこと。〈履修カルテ〉記入方法、提出日を授業中に説明するので、締め切りまでに各自で記入しておくこと。〈模擬授業・研究発表会〉グループごとに発表日までに準備をすること。

評価方法

課題の参画状況や成果を「目的」の①～④に照らして点数化し、教員としての最低限の資質・能力・知識が身につけているか確認し、評価を行う。（前年度の参考：ディスカッション等（15%）、学校現場のフィールドワーク（20%）、模擬授業とその考察（30%）、履修カルテ（5%）、最終プレゼンテーション（30%））

履修上の注意

- ①上記スケジュールはあくまでも目安である。詳細は第1回の授業にて担当教員が説明する。
- ②原則として2/3以上の受講回数を評価の対象とする。

科目名 教職実践演習(中・高)
Title Seminar of Teacher Professional Practice
科目区分 教職関連科目

教授 担当教員 木下 まゆみ (キノシタ マユミ) 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 4 単位区分 要件外 単位数 2 開講時期 後期

目的

これまでの学習を振り返り、教科指導のさらなる知識・技能を身に付け、教職に関する理解を深める。また、これらと同時に、生徒理解の基盤となるコミュニケーションに関する能力を高める。以上を通じて、自身の教師としての資質を再認識する。

達成目標

大学において学んだ教職に関する知識と、教育実習等で得た実践的技能の定着と向上を目指し、教師としての人格的・社会的・指導的資質のより一層の研鑽を図る。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 授業に関する理解 KJ法
- 第3回 教科の理解① 日本史の教育法
- 第4回 教科の理解② 世界史・地理の教育法
- 第5回 教科の理解③ 公民の教育法
- 第6回 教育実習の振り返り マインドマップ
- 第7回 コミュニケーション① 相互作用性の理解と実習
- 第8回 コミュニケーション② 非言語的行動の理解と実習
- 第9回 教育評価① 学力とその評価
- 第10回 教育評価② 逆働き設計による授業案作成
- 第11回 教育評価③ 模擬授業(グループA)
- 第12回 教育評価④ 模擬授業(グループB)
- 第13回 教育評価⑤ 模範解答とルーブリックの作成
- 第14回 教育評価⑥ グループ発表
- 第15回 総括 ロールレタリング

教科書・参考文献

教科書 授業時に指示

参考書 授業時に紹介

授業外での学習

教育に関するニュースに常日頃から関心を持ち、積極的に情報収集を行うこと。授業で扱う様々なコミュニケーションスキルについて、普段の生活の中でも意識し、実践すること。

評価方法

レポート及びプレゼンの内容、演習授業への参画度等により総合的に評価する。
教員としての最小限必要な資質・能力が身についているかを確認し、単位認定を行う。

履修上の注意

グループ作業、対話を中心に授業を進めます。積極的な参加を期待します。

科目名 教職実践演習(中・高)
Title Seminar of Teacher Professional Practice
科目区分 教職関連科目

担当教員
非常勤講師 高橋 望 (タカハシ ノゾム)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
後期

目的

教職実践演習は、教職課程における「学びの軌跡の集大成」として位置づけられている。教職課程の科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて、学生が身につけた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され形成されていることを最終的に確認するものである。将来、教員になるにあたり自分にとって何が課題であるのか、不足している知識や技能は何かを探り出し、それらを本演習で補い定着を図ることが目的である。

達成目標

教員として必要な次の4項目の資質を確認する。
①教職に対する使命感や責任感、教育的愛情が豊かであること ②社会性や対人関係能力が適切であること
③生徒理解や学級経営等に関する資質を身につけていること ④教科等の指導に対する技能・知識を身に習得していること

スケジュール

- 第1回～第2回 「教職実践演習」の目的、計画と進め方についての説明等。
これまで教職課程で学んできたことの確認。
- 第3回～第5回 教育実習終了者の体験報告を通して、各学校の取り組みや実践、実習生としての活動等を確認し、今日の子どもの特性や教員の役割について考える。
(ロールプレイングやディスカッション形式)
- 第6回～第8回 学校現場への理解：現地調査(フィールドワーク)やゲストスピーカーによる講話を通して、次の4項目を理解しているかを確認する。
①教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務
②教員組織における自己の役割や、他の教職員と協力した校務運営の重要性
③保護者や地域との連携・協力の重要性
④社会人としての基本マナー
- 第9回～第13回 教科等の指導研究：模擬授業やグループ活動を通して次の3つを研究する。
①学習指導の基本的事項(教科等の知識や技能など)
②教材研究の方法や、教材・教具、学習形態、学習指導案等の作成
③教員としての表現力や授業力、子どもの反応を活かした授業づくり
- 第13回～第14回 教育的課題の考察：生徒理解と学級経営のなかで生じる問題、生徒の問題行動、いじめや不登校、特別支援教育等の今日的な教育課題について事例研究を通して考察する。
- 第15回 研究発表会(最終プレゼンテーション)
これから教員として基本的な資質・能力が全般にわたって備わっているかを確認する。

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 授業内で紹介する。

授業外での学習

- < 授業を始める前に > 教育実習について各自で記録のまとめをしておくこと。
< 履修カルテ > 記入方法、提出日を授業中に説明するので、締め切りまでに各自で記入しておくこと。
< 模擬授業・研究発表会 > グループごとに発表日までに準備をすること。

評価方法

それぞれの課題の参画状況や成果を「目的」の①～④に照らし合わせて点数化し、教員としての最低限の資質・能力・知識が身につけているか確認した上で評価を行う。

履修上の注意

- ①上記のスケジュールはあくまでも目安である。詳細は第1回の授業にて担当教員が説明する。
②出席回数が3分の2に達しない者は評価の対象にしない。

科目名 職業指導
Title Guidance of Vocational Education
科目区分 教職関連科目

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 大嶋 伊佐雄 (オオシマ イサオ)

E-Mail

配当年次 1~4 単位区分 要件外 単位数 2 開講時期 後期

目的

学校現場および教育指導行政における教育経験を活かして、職業指導・進路指導・キャリア教育における具体的な課題や対応を指導する。

生徒自らが進路について、主体的に考え、活動し、選択・決定できるよう、その発達段階を踏まえて組織的・計画的・継続的に指導・支援する方法を考察させる。全校を挙げて取り組む指導体制の構築について理解を深める。

総合的な学習の時間やホームルーム活動(学級活動)における進路指導計画の立案とその指導法などについて考察させる。これらの内容を通して、教師として求められている実践的指導力を身に付ける。

達成目標

1. 教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付けを理解するとともに、その説明ができる。
2. 学校教育における職業指導・進路指導・キャリア教育の変遷及び基礎理論が理解できる。
3. 進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方を理解している。
4. 特別活動及び総合的な学習の時間を活用した進路指導計画を作成できる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス・職業指導とは何を学ぶのか
- 第2回 職業指導の概念
- 第3回 職業指導・進路指導・キャリア教育の歴史と展開
- 第4回 わが国の職業指導・進路指導・キャリア教育の歴史的発展
- 第5回 職業指導・進路指導・キャリア教育の基礎理論
- 第6回 職業指導・進路指導・キャリア教育の基本理念と性格
- 第7回 進路指導・キャリア教育の諸活動
- 第8回 進路指導・キャリア教育の組織と運営
- 第9回 進路指導・キャリア教育の計画と実践(情報機器の活用)
- 第10回 学校と家庭・地域・諸機関との連携・協力
- 第11回 キャリア・カウンセリングの理論・技法とその活用
- 第12回 進路指導・キャリア教育のアセスメント
- 第13回 産業界・労働界における職業指導とキャリア・ガイダンス
- 第14回 キャリア教育と商業教育の在り方
- 第15回 キャリア教育の課題と展望

教科書・参考文献

教科書 特定の教科書は使用しない。随時プリントを配布する。

参考書 「進路指導・キャリア教育の理論と実践」(吉田辰雄他著、日本文化科学社)
「高等学校学習指導要領解説 特別活動編(平成30年告示)」(文部科学省、東京書籍)

授業外での学習

社会における職業構造について、常時様々な資料や情報の入手と分析を心がけ、キャリア・ガイダンスの多面的な理解を深めること。

評価方法

定期試験(80%)、レポート課題とその発表(10%)、授業への参加度(態度・意欲など10%)、

履修上の注意

特になし

科目名 介護等体験実習
Title Internship for Care and Nursing
科目区分 教職関連科目

教授 熊澤 利和 (クマザワ トシカズ)
担当教員 熊澤 利和 (クマザワ トシカズ)
担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2~4
単位数 1
単位数 1
開講時期 通年

目的

小学校及び中学校教諭の普通免許状に係る教育職員免許法の特例等に関する法律（平成9年法律第90号）が制定され、小学校又は中学校教諭の普通免許状を取得するためには、特別支援学校及び社会福祉施設等においての実習が義務づけられました。この科目は、この規定に従い展開されます。実習における意義などについては、講義で説明を行います。

■注意点

この科目を履修・登録ができる者は小学校又は中学校教諭の普通免許状を取得する人のみが対象となります。講義等の具体的日時の連絡は、掲示板を通して行います。掲示板の見忘れ、見落としによる遅刻・欠席は、認められませんので十分に注意をしてください。

達成目標

- ①教育実習の一環としての体験実習であることを理解し、課題を設定できる。
- ②介護について考えることができる。
- ③共生社会、ノーマライゼーション社会の構築に対して、教員の役割を考えることができる。

スケジュール

前年度12月：オリエンテーション①

介護等体験実習（中学校免許取得意志）の確認
群馬県社会福祉協議会との連絡調整開始のための準備

当該年度 4月：（1）オリエンテーション②

事務局よりオリエンテーション 資料配付

※第1週よりオリエンテーションを行う予定 正当な理由がなく遅刻・欠席をした場合、以後の本年度の学習が継続できなくなるので注意してほしい。

（2）特別支援学校体験実習事前指導

介護等体験実習の意義とねらい

教育実習の一環としての体験実習の意義

事前学習レポート課題①の提示

※例年4月下旬頃から特別支援学校体験実習が開始される

6月：（1）オリエンテーション③

事務局よりオリエンテーション 資料配付

（2）社会福祉施設実習事前指導①

事前学習レポート課題②の提示

7月：（1）社会福祉施設実習事前指導②

事前学習レポート課題③の提示

8～9月：社会福祉施設実習（5日間）

事前学習レポート課題③の提示

11月以降すべての実習が終了後事後指導

最終レポート課題④の提示

※担当者は、細井雅生 熊澤利和

2020年度は、熊澤が担当

教科書・参考文献

教科書 教科書① 『よくわかる社会福祉施設 - 教員免許志願者のためのガイドブック（第5版）』全国社会福祉協議会 2018

参考書 教科書② 全国特別支援学校長会編 『フィリア-新学習指導要領（平成29年公示）版』ジヤース教育新社 2018 その他、講義中に指示をします。

授業外での学習

予習内容については授業中に指示するので、必ず調べてくること

評価方法

所定のオリエンテーション、講義及び所定の実習を、すべて出席をすることを前提に、レポート、実習ノート、受講態度等を参考にしながら、教員が行う評価及び実習施設の指導者による評価から総合的に評価を行います。

履修上の注意

オリエンテーション及び講義に、出席できない場合は事前に欠席理由書を提出してください。なお、当日病気等でやむを得ない事情（アルバイトは不可）により出席できない場合は、必ず本人が連絡してください。正当な理由がなく、かつ連絡がない遅刻・欠席の場合、該当年度の介護等体験実習は、取り消しとなります。